

変化する記事のツボを押さえる

山田一郎

東京都立竹早高等学校教諭

1 授業のねらい

- ①新聞記事は時間とともに報道内容のポイントが変化していくことを理解する。
- ②それと同時に報道内容が深まっていくことも理解する。
- ③一連の報道が、最終的には「記録文」「報告文」となって手元に残せることを知る。
- ④「記録」「報告」としての新聞記事を読みこなすことが、国語ばかりでなく様々な授業の基礎になっていくことを理解する。

2 授業展開

I. 事前準備—大事故・大事件を見逃さない。

- ①大きな事件・事故で継続して報道が掲載された記事をスクラップしておく。
- ②主に見出し、リード文をコピーする。

資料①

II. 事件・事故を時系列に理解する。

- ①コピーした見出し、リード文をバラバラに並べ時系列で再現する。 ▶ **ワークシート1**
- ②記事のポイントはどこにあるかグループなどで話し合ったりして5W1Hのポイントになっている点をワークシートに記入する。 ▶ **ワークシート1**
- ③ポイントはまず、WHO、WHAT、WHERE、WHENであること、それから時間を追ってHOWに移り、WHYへ進むことを理解させる。
- ④5W1Hの各項目も、時間の推移とともに正確でより詳しくなっていくことを理解する。最初の記事から、どの項目がどのように「正確で詳しくなって」いったか——マーカーなどで印をつけながら変化の過程をワークシートに記入する。 ▶ **ワークシート2**
- ⑤大事件の場合（資料①の事故など）継続して報道が続くことがあり、常に紙面に注意を向けることもあわせて指導したい。

III. 他紙と時系列間で比較する

- ①事件・事故が発生した地元紙（逆に全国紙も考え得る）を取り寄せ、I、IIと同様に時系列に並べてみる。
- ②地元紙、全国紙の間で事件・事故の記事がどのように扱われているか、比較・検討する。
→比較・検討は、記事のボリューム、5W1Hの目の付け所、ウェートの置き方、深め方、記事の継続性などをポイントにする。
- ③どの点に最も特徴（違い）があったか、ワークシートに記入する。

3 評価

- ①新聞記事は、時間とともに報道のポイントが変化していくことを理解できたか。
- ②同時に報道内容が深まることについても理解できたか。
- ③「時系列の読み」と「横断的な読み」の両方が新聞記事の読解に欠かせないことを理解できたか。

4 発展

- ①時系列かつ横断的に紙面（見出しとリード文）を組み合わせ、一つの事件・事故について見渡すことの可能な『新聞の新聞』（壁新聞）を作る。
- ②時系列の変化と他紙との比較から、小論文やスピーチで自分の意見を発表してみる。

▶ **ワークシート1** 記事の順番はどうなっているだろう

() 組 () 番 ()

記事の順番 A ____ 番、B ____ 番、C ____ 番、D ____ 番、E ____ 番、F ____ 番、G ____ 番、H ____ 番、I ____ 番

各記事のポイントは何か？ < > の中に5W1Hのどれかを入れていく。(最も重要そうなものから三つぐらい)

A の記事 <	> B の記事 <	>
C の記事 <	> D の記事 <	>
E の記事 <	> F の記事 <	>
G の記事 <	> H の記事 <	>
I の記事 <	>	

▶ **ワークシート2** 5W1Hの記述はどう変化した？

() 組 () 番 ()

- この記事は全体として何について書かれているだろう？ 全体の見出しをつけるつもりでまとめてみよう。また、全体の流れに沿ってそれぞれの記事の内容を取り出して見よう。
- 記事全体の内容（見出し）〔 _____ 〕
- 記入上の注意：初めて出てきた時、またはその記事で最も重要な事柄である場合（例：A記事で場所がポイントだったら WHERE の所に記入する。他の記事で出ていて、そこでは重要度が低い場合は #印を記入する。

	WHO	WHAT	WHERE	WHEN	HOW	WHY
一番の記事 _____						
二番の記事 _____						
三番の記事 _____						
四番の記事 _____						
五番の記事 _____						
六番の記事 _____						
七番の記事 _____						
八番の記事 _____						
九番の記事 _____						

授業では、見出し、リード、写真（キャプションも）を縮小コピーして、B5判のプリント4枚に納めて配布した。記事の日付は伏せて（リードやキャプションからも削除）順番を推測させた。しかし、全くないと難しいので、一部をヒントとして残すとよいかもしれない。

展開した記事はすべて毎日新聞で、日付は

- 1999. 9. 30 夕刊 (A)
- 10. 1 朝刊 (C)
- 10. 1 夕刊 (D)
- 10. 2 朝刊 (E)
- 10. 3 朝刊 (C)
- 10. 4 朝刊 (B)
- 10. 6 朝刊 (I)
- 10. 6 夕刊 (F)
- 10. 7 朝刊 (H)

切り取って
パズルに挑戦！



臨界に

屋内退避を

臨界事故でJCO捜

国内初の臨界事故

東海村核燃工場 放射能漏れ 核分裂、継続か

10キロ内31万人に屋内退避要請

政府が対策本部被ばく、計19人に

茨城県東海村の核燃料加工会社「シー・シー・オー」で臨界事故の発生を告げた。事故発生後、核燃料加工施設で作業していた作業員19人が被ばくした。事故発生後、核燃料加工施設で作業していた作業員19人が被ばくした。事故発生後、核燃料加工施設で作業していた作業員19人が被ばくした。

茨城県東海村の核燃料加工会社「シー・シー・オー」で臨界事故の発生を告げた。事故発生後、核燃料加工施設で作業していた作業員19人が被ばくした。事故発生後、核燃料加工施設で作業していた作業員19人が被ばくした。

臨界事故

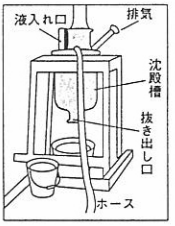
経費節減で違法作業

バケツ
使用 JCO 幹部供述

茨城県東海村の核燃料加工会社「シー・シー・オー」(JCO)で臨界事故の発生を告げた。事故発生後、核燃料加工施設で作業していた作業員19人が被ばくした。事故発生後、核燃料加工施設で作業していた作業員19人が被ばくした。



事業許可取り消しへ



JCO事故 常態的な違法確認

■事件発生から一週間の朝・夕刊見出し(一面)の変化

茨城県東海村のウラン燃料加工施設事故

会社ぐるみ違法工程

JCO臨界事故

前日も大量ウラン 二重マニュアル、恒常的

臨界事故
科技厅 事業許可取り消しも
JCOを立ち入り検査

放射能漏れ 3人被ばく
周辺200メートル立ち入り禁止
東海村のウラン加工施設

「一応終息」

東海村放射能漏れ

未明に冷却水除去

被ばく者計49人に
10キロ圏の厳戒続く

解除

10キロ圏18時間ぶり

東海村
核臨界事故
終息、政府が宣言

県警
首脳
の責任
を追及

茨城県東海村のウラン燃料加工施設で、9月30日午後1時40分、臨界事故が発生した。事故発生後、施設内には放射能が漏れ、周辺地域に避難指示が出された。事故発生から約1週間、東海村のウラン加工施設は、周辺200メートル以内立ち入り禁止の措置が取られていた。事故発生後、施設内には放射能が漏れ、周辺地域に避難指示が出された。事故発生から約1週間、東海村のウラン加工施設は、周辺200メートル以内立ち入り禁止の措置が取られていた。

茨城新聞 1999. 10. 1 付朝刊

核燃料施設で臨界事故



東海村 放射能漏れ、3人被ばく 2人重症、160人が避難

狂った小さな歯車 国内最悪の原子力事故

東海村のウラン燃料加工施設で、9月30日午後1時40分、臨界事故が発生した。事故発生後、施設内には放射能が漏れ、周辺地域に避難指示が出された。事故発生から約1週間、東海村のウラン加工施設は、周辺200メートル以内立ち入り禁止の措置が取られていた。

茨城新聞
茨城新聞社
〒305-8501 茨城県水戸市東区
電話 029-224-3101
広告部 029-224-3102

サリン実行犯に死刑判決
ユースで市民と警察が衝突
経路対策本部は10月1日

医療の発展
今日の市民生活
今日の市民生活

茨城新聞 1999. 10. 3 付朝刊

初歩的ミス引き金

緊急連載 臨界事故

精製、2人は未経験

「緊急連載」の「臨界事故」は、東海村のウラン燃料加工施設で発生した事故の経緯を詳しく紹介している。事故の原因は、作業員の初歩的ミスによるものとされている。このミスは、燃料の精製工程で発生した。作業員は、燃料の精製工程で、燃料の濃度を調整するために、燃料を容器に移す作業をしていた。この作業中に、作業員は、燃料の濃度を調整するために、燃料を容器に移す作業をしていた。この作業中に、作業員は、燃料の濃度を調整するために、燃料を容器に移す作業をしていた。